

ServerView Resource Orchestrator V3.0



構成定義テンプレート(Excel形式) の利用方法

まえがき

本書の目的

本書は、ServerView Resource Orchestrator(以降、本製品)の構成定義テンプレート(Excel形式)の利用方法について説明しています。

本書の読者

本書は、本製品を導入する管理者を対象にします。
また、システムを構築するにあたり、導入するサーバやストレージ、ネットワーク機器の基本的な設定方法を理解していることを前提としています。

本書の表記について

本書中の表記方法は以下のとおりです。

- 特に説明がない場合、本文中の"ブレードサーバ"はPRIMERGY BXシリーズを指します。
- 参照先は「」でくります。
- 画面名、ダイアログ名、メニュー名、およびタブ名は[]でくります。
- ボタン名は<>でくります。
- メニューの選択順を[]-[]の形式で示します。
- ユーザが入力する文字は太字で示します。
- 可変部分は斜体で示します。
- 特に強調が必要な文字列、数値をダブルクォーテーション(")でくります。
- メニュー名には、設定、操作画面の起動を示す"..."は表記しません。

関連マニュアル

以下のマニュアルを必要に応じて参照してください。

- ServerView Resource Orchestrator V3.0 Virtual Edition 操作ガイド
- ServerView Resource Orchestrator V3.0 Cloud Edition 操作ガイド インフラ管理者編(リソース管理)

略称

本書中の略称は以下のとおりです。

略称	製品
Excel	Microsoft(R) Office Excel(R) 2010 Microsoft(R) Office Excel(R) 2007 Microsoft(R) Office Excel(R) 2003 Microsoft(R) Office Excel(R) 2002
Excel 2010	Microsoft(R) Office Excel(R) 2010
Excel 2007	Microsoft(R) Office Excel(R) 2007
Excel 2003	Microsoft(R) Office Excel(R) 2003
Excel 2002	Microsoft(R) Office Excel(R) 2002

輸出管理規制表記

当社ドキュメントには、外国為替および外国貿易管理法に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

商標について

- Microsoft、Windows、Windows XP、Windows Server、Windows Vista、ExcelおよびInternet Explorerは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- ServerView、Systemwalkerは富士通株式会社の登録商標です。
- その他の会社名および製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

お願い

- 本書を無断で他に転載しないようお願いいたします。
- 本書は予告なしに変更されることがあります。

2012年1月 第1版

Copyright 2007-2012 富士通株式会社

目次

第1章 構成定義テンプレートの利用(Excel).....	1
1.1 テンプレートファイルの取得.....	2
1.2 テンプレートの編集.....	2
1.2.1 ボタンの使用.....	6
1.2.2 オプションの使用.....	9
1.2.3 入力チェック.....	10
第2章 構成定義ファイルの作成・編集.....	13
2.1 ブレードサーバ.....	13

第1章 構成定義テンプレートの利用(Excel)

Excel形式の構成定義テンプレートは、PRIMERGY BXシリーズのサーバに対して設定が可能です。
PRIMERGY BXシリーズ以外のサーバの設定を行う場合は、CSV形式の構成定義ファイルを利用してください。
本製品が提供している構成定義テンプレートを利用するには、以下のバージョンのExcelが必要です。

- Excel 2002
- Excel 2003
- Excel 2007
- Excel 2010

VIOMの構成定義情報の入出力を行う場合は、以下のソフトウェアが必要になります。

Microsoft Core XML Services (MSXML) 6.0 Service Pack 1 以降

以下のMicrosoft社のWebサイトから入手してください。

URL

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=D21C292C-368B-4CE1-9DAB-3E9827B70604&displaylang=ja> (2012年1月時点)



注意

構成定義テンプレートファイルには、入力を支援するマクロが含まれています。Excelでマクロを有効にするために、以下の手順でExcelのセキュリティ設定を変更してください。

- Excel 2002またはExcel 2003を利用する場合

Excel 2002またはExcel 2003では、以下の操作でセキュリティレベルを変更できます。

1. Excelのメニューから[ツール(T)]-[オプション(O)]を選択します。
[オプション]ダイアログが表示されます。
2. [セキュリティ]タブを選択し、<マクロ セキュリティ(S)>ボタンをクリックします。
[セキュリティ]ダイアログが表示されます。
3. セキュリティレベルを"高"以下に変更し、<OK>ボタンをクリックします。
4. テンプレートファイル(template.xlt)を開き、その際に表示される[セキュリティの警告]ダイアログで作成者などの詳細を確認したあと、"この作成者のマクロを常に信頼する(A)"のチェックボックスをチェックして、<マクロを有効にする(E)>ボタンをクリックします。

- Excel 2007を利用する場合

あらかじめ以下の手順でセキュリティセンターのマクロを設定しておいてください。

1. Microsoft Office ボタンをクリックし、[Excel のオプション]を選択します。
2. 表示されたダイアログで[セキュリティセンター]-[セキュリティセンターの設定]-[マクロの設定]を選択します。
3. "マクロの設定"に表示されるマクロのセキュリティ設定の中から、"デジタル署名されたマクロを除き、すべてのマクロを無効にする(G)"を選択し、<OK>ボタンをクリックします。
4. テンプレートファイル(template.xlt)を開き、ツールバーの下に表示される"セキュリティの警告"の<オプション>ボタンをクリックします。
5. 署名を確認し、"この発行者のドキュメントをすべて信頼する"のチェックボックスをチェックし、<OK>ボタンをクリックします。

- Excel 2010を利用する場合

あらかじめ以下の手順でセキュリティセンターのマクロを設定しておいてください。

1. Excelのメニューから[ファイル]-[オプション]を選択します。
2. 表示されたダイアログで[セキュリティセンター]-[セキュリティセンターの設定]-[マクロの設定]を選択します。
3. "マクロの設定"に表示されるマクロのセキュリティ設定の中から、"デジタル署名されたマクロを除き、すべてのマクロを無効にする(G)"を選択し、<OK>ボタンをクリックします。
4. テンプレートファイル(template.xlt)を開き、ツールバーの下に表示される"セキュリティの警告"の"マクロが無効にされました"をクリックします。
5. 表示されたダイアログで、[コンテンツの有効化]-[詳細オプション]をクリックします。
6. 署名を確認し、"この発行者のドキュメントをすべて信頼する"のチェックボックスをチェックし、<OK>ボタンをクリックします。

構成定義テンプレートは、Excelのテンプレート形式(拡張子".xlt")になっているため、編集が完了したあと、[上書き保存(S)]を選択した場合も、[名前を付けて保存(A)]を選択した場合と同じ動作になります。

ファイルをコピーして利用する場合は、拡張子を".xls"に変更することで、そのまま上書き保存ができます。



参考

Excelのセキュリティ設定が正しく変更されていない場合、以下のメッセージが表示される場合があります。

- Excel 2002またはExcel 2003の場合
 - マクロが使用できません。セキュリティレベルが最高に設定されています。
セキュリティレベルを"高"以下に変更してください。
 - "ファイル名"はマクロを含んでいます。
<マクロを有効にする(E)>ボタンをクリックしてください。
- Excel 2007またはExcel 2010の場合
 - セキュリティの警告 セキュリティの設定により、マクロの実行が無効にされました。
セキュリティレベルを"デジタル署名されたマクロを除き、すべてのマクロを無効にする"に設定してください。

1.1 テンプレートファイルの取得

Excel形式の構成定義テンプレートの最新版は、ServerView Resource Orchestratorホームページから取得してください。

1.2 テンプレートの編集

構成定義テンプレートは、ブレードシャーシ1台分の構成定義のサンプルが入力されているので、これをもとに編集を行ってください。

各セルの入力方法については、Excelの入力方法・基準に従って入力します。表の枠外のセルや、背景に色の付いているセルは変更できません。また、セルに入力された値に対する切り取り処理は無効化されているため利用できません。



注意

マウスのドラッグアンドドロップ編集によるセルのテキストの移動は使用しないでください。

構成定義テンプレートに表示される各項目には、以下の値を設定します。

- 項目名は"必須/任意/変更不可/入力不要"のどれかで色分けされています。"必須"項目に関しては、必ず入力してください。
- 背景に色が付いていないセルは入力可能な項目です。リストからの選択または値を入力してください。
- ハイフン("-")は"入力なし"とします(VIOMの構成定義情報を除く)。必須項目で未入力欄がある場合、関連情報はCSVファイルへ保存されません。
ただし、ユーザ名とパスワードはハイフン("-")を値として設定できます。

- 円マーク("¥")やダブルクォーテーション(" ")などの文字を入力する場合、構成定義テンプレート(Excel)と構成定義ファイル(CSV)の記述が異なります。
CSVファイルの記述について、以下を参照してください。

表1.1 構成定義テンプレート(Excel)と構成定義ファイル(CSV)の記述の違い

構成定義テンプレート(Excel)の記述	構成定義ファイル(CSV)の記述
¥	¥¥
改行	¥n
"	""
,	(*1)

*1: 値全体をダブルクォーテーション(" ")で囲みます。

参考

RORコンソールの表示と構成定義テンプレート(Excel)の記述は同じです。

例

— Excelの記述

```
a
b,¥n
```

— CSVの記述

```
"a¥nb,¥¥n"
```

値を入力できるすべての行の左端に"操作"の欄があります。この欄は、インポート時にその行をどう扱うかを指定するためのものです。操作を選択したあと、その行の他の項目に値を入力してください。操作を選択せずに他の値を変更しようとする、警告メッセージが表示されます。

参考

VIOMの構成定義情報では、行単位ではなく、シート全体に対する操作になります。

登録:

新たにリソースを登録します。

変更:

一度登録したリソースの設定を変更します。

-:

構成定義ファイルのインポート時に、その行の記述は実行されません。

"登録"や"変更"を選択している場合でも、すでに登録されているリソースがその行に書かれている値と同じ状態であれば、インポートを行っても処理は行われません。このため、インポートの途中でエラーが発生した場合は、エラーになった行だけを編集し、再度インポートできます。エラーにならなかった行を変更する必要はありません。

図1.2 構成定義テンプレート("NetVLAN"シート)

一括設定テンプレート【ネットワーク情報(VLAN)】

凡例: 必須 任意 変更不可 入力不要

シャーシ(chassis01)のネットワーク設定
LANスイッチブレードのVLAN情報(chassis01)

操作	スロット番号	LANスイッチ名	VLAN ID, およびタグ条件(T/U)													
			ポート 1	ポート 2	ポート 3	ポート 4	ポート 5	ポート 6	ポート 7	ポート 8	ポート 9	ポート 10	ポート 11	ポート 12	ポート 13	ポート 14
--	1	switch-01	10/T,20/U	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
--	2	switch-02	10/T,20/U	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
--	3	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
--	4	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

サーバブレードのVLAN情報(chassis01)

操作	スロット番号	物理サーバ名	VLAN ID, およびタグ条件(T/U)											
			NIC 1	NIC 2	NIC 3	NIC 4	NIC 5	NIC 6	NIC 7	NIC 8	NIC 9	NIC 10	NIC 11	NIC 12
--	1	blade001	10/T,20/U	1/U,20/U	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
--	2	blade002	10/T,20/U	1/U,20/U	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
--	3	blade003	1/U	1/U	20/U	20/U	--	--	--	--	--	--	--	--
--	4	blade004	1/U	1/U	20/U	20/U	--	--	--	--	--	--	--	--
--	5	blade005	1/U	1/U	21/U	21/U	41/U	41/U	--	--	--	--	--	--
--	6	blade006	1/U	1/U	21/U	21/U	41/U	41/U	--	--	--	--	--	--
--	7	blade007	1/U	1/U	21/U	21/U	41/U	41/U	--	--	--	--	--	--
--	8	blade008	1/U	1/U	20/U	20/U	--	--	--	--	--	--	--	--
--	9	blade009	1/U	1/U	20/U	20/U	--	--	--	--	--	--	--	--
--	10	blade010	1/U	1/U	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

図1.3 構成定義テンプレート("PowerMonitoring"シート)

一括設定テンプレート【電力監視デバイス情報】

メニュー

凡例: 必須 任意 変更不可 入力不要

電力監視デバイス情報

操作	デバイス名	IPアドレス	SNMPコミュニティ名(RO)	電圧	コメント
--	ups1	192.168.1.30.10	public	100	SmartUPS
--	ups2	192.168.1.30.11	public	100	SmartUPS

図1.4 構成定義テンプレート("VIOM"シート)

一括設定テンプレート【関連ソフトウェア情報(VIOM)】

メニュー

本機能の動作にはMicrosoft Core XML Services (MSXML) 6.0 Service Pack 1 以降が必要です。

凡例: 必須 任意 変更不可 入力不要

サーバプロファイル情報

操作:

Name of the profile	Disable Boot Menu Usage	Onboard IO channels	Daughter Card 1		Daughter Card 2		
			Daughter Card 1	IO Channels	Daughter Card 2	IO Channels	DMUX setting
ServerProfile-1	OFF	2	FC	2	LAN	2	Fabric 3

サーバプロファイルのI/O設定

Name of the profile	Port	Daughter card	Virtual WWPN	Virtual WWPN	Virtual MAC
ServerProfile-1	Onboard	1	LAN		00:19:99:3e:d2:a1
ServerProfile-1	Onboard	2	LAN		00:19:99:3e:d2:a2
ServerProfile-1	Daughter 1	Port 1	FC	20:01:00:17:42:2a:12:00	21:01:00:17:42:2a:12:00
ServerProfile-1	Daughter 1	Port 2	FC	20:01:00:17:42:2a:12:01	22:01:00:17:42:2a:12:01
ServerProfile-1	Daughter 2	Port 1	LAN		00:19:99:3e:d2:a3
ServerProfile-1	Daughter 2	Port 2	LAN		00:19:99:3e:d2:a4

サーバプロファイルのポート設定 (SAN)

Name of the profile	Port	1st Target	2nd Target		
		Port Name (WWPN)	LUN	Port Name (WWPN)	LUN
ServerProfile-1	Daughter 1	Port 1	20:01:00:17:42:2a:12:02	0	20:01:00:17:42:2a:12:02
ServerProfile-1	Daughter 1	Port 2	20:01:00:17:42:2a:12:02	0	20:01:00:17:42:2a:12:02

サーバプロファイルのポート設定 (iSCSI)

Name of the profile	Port	Initiator Parameters				
		Address Origin	Initiator Name	IPv4 Address	Subnet Mask	
ServerProfile-1	Onboard	1	static	iqn.2008-12.com:blade-2	192.168.196.200	255.255.255.0
ServerProfile-1	Onboard	2	static	iqn.2008-12.com:blade-2	192.168.196.201	255.255.255.0

1.2.1 ボタンの使用

構成定義テンプレートに含まれるボタンの使用方法は以下のとおりです。

"RCX-template"シート

<構成定義ファイルの読み込み>ボタン

CSV形式で作成した構成定義ファイルまたは、VIOMの構成定義ファイルを構成定義テンプレートに読み込む場合にクリックします。このボタンをクリックすると、[構成定義ファイルの読み込み]ダイアログが表示されます。構成定義ファイルを選択すると、ファイル内容がテンプレートに読み込まれます。先頭行に"RCXCSV,V1.0"、"RCXCSV,V2.0"、"RCXCSV,V3.0"、"RCXCSV,V3.1"、"RCXCSV,V3.2"、"RCXCSV,V3.3"または"RCXCSV,V3.4"と記述された形式の構成定義ファイルの読み込みが行えます。構成定義ファイルの形式については、「ServerView Resource Orchestrator V3.0 Virtual Edition 操作ガイド - 付録A 一括設定用の構成定義ファイル(CSV形式)」または「ServerView Resource Orchestrator V3.0 Cloud Edition 操作ガイド インフラ管理者編(リソース管理) - 付録A 一括設定用の構成定義ファイル(CSV形式)」を参照してください。

読み込みの際、CSVファイルに入力誤りがあった場合、エラーダイアログが表示されますが、CSVファイルの読み込みが完了するまで読み込み処理が継続されます。読み込み終了時に表示されるメッセージダイアログの<OK>ボタンをクリックし、ダイアログを閉じます。エラーダイアログが表示された場合、エラーの内容を記録し、読み込み処理完了後に修正してください。

VIOM構成定義ファイルは、VIOMのWeb UI上からサーバプロファイル情報をエクスポートすることで、入手することができます。詳細は、VIOMのマニュアルを参照してください。



- CSV形式の構成定義ファイルに、"Server"、"ServerWWNN"、"SpareServer"の複数のサーバセクションがある場合、構成定義テンプレート上の操作欄は共通のため、"Server"セクションの操作欄だけが読み込まれます。
- CSV形式の構成定義ファイルに、"ServerAgent"、"ServerVMHost"、"Memo"、"VMManager"、"SPARCEnterprise"、"PRIMERGYPartitionModelChassis"、"PRIMERGYPartitionModelServer"、"Subnet"、"SPARCEnterprisePartitionModelChassis"、"SPARCEnterprisePartitionModelServer"、"MonitorSetting"、"VIOManager"セクションおよびバックアップ情報がある場合、これらの情報を構成定義テンプレートは読み込みません。
- CSV形式の構成定義ファイルにあるPRIMERGY BXシリーズ以外のサーバ情報は、構成定義テンプレートは読み込みません。
- CSV形式の構成定義ファイルのバージョンが3.4の場合、それぞれ以下の状態で読み込まれます。
 - "Server"セクションがあり、"slot_no"に9以降の数字が設定されていない場合、オプションの表示スロット数の選択は「LANスイッチブレード×4 + サーバブレード×8 (BX400)」が選択された状態で読み込まれます。
 - "Server"セクションがあり、"slot_no"に9以降の数字が設定されている、かつ11以降の数字が設定されていない場合、オプションの表示スロット数の選択は「LANスイッチブレード×4 + サーバブレード×10 (BX600)」が選択された状態で読み込まれます。
 - "Server"セクションがあり、"slot_no"に11以降の数字が設定されている場合、オプションの表示スロット数の選択は「LANスイッチブレード×8 + サーバブレード×18 (BX900)」が選択された状態で読み込まれます。
- CSV形式の構成定義ファイルのバージョンが3.3以下の場合、"Server"セクションがあり"slot_no"に11～18の数字が設定されている、"LanSwitch"のセクションがあり"slot_no"に5～8の数字が設定されている、または"LanSwitchNet"のセクションがあり"slot_no"に5～8の数字が設定されている場合、オプションの表示スロット数の選択は「LANスイッチブレード×8 + サーバブレード×18 (BX900)」が選択された状態で読み込まれます。他の場合は、「LANスイッチブレード×4 + サーバブレード×10 (BX600)」が選択された状態で読み込まれます。
- CSV形式の構成定義ファイルに、"LanSwitchNet"セクションがあり同一の"chassis_name"、"slot_no"の異なる"port_no"に対して"vlan_id"が設定されている場合、その"chassis_name"、"slot_no"に対して定義した最後のVLAN情報の操作欄が読み込まれますので、操作欄の内容は統一してください。同様に、"ServerNet"セクションがあり同一の"server_name"の異なる"nic_no"に対して"vlan_id"が設定されている場合、その"server_name"に対して定義した最後のVLAN情報の操作欄が読み込まれますので、操作欄の内容は統一してください。

<構成定義ファイルの保存>ボタン

構成定義テンプレートで入力した値をCSV形式の構成定義ファイルまたは、XML形式のVIOM構成定義ファイルに出力する場合にクリックします。

このボタンをクリックすると、[構成定義ファイルの保存]ダイアログが表示されます。保存先のフォルダとファイル名を選択し、ファイルを保存します。なお、保存したあとも、再度編集する場合に備えて、Excel形式の構成定義ファイルも保存しておくことをお勧めします。先頭行に"RCXCSV,V3.4"が記述された形式で構成定義ファイルを保存します。構成定義ファイルの形式については、「ServerView Resource Orchestrator V3.0 Virtual Edition 操作ガイド - 付録A 一括設定用の構成定義ファイル(CSV形式)」または「ServerView Resource Orchestrator V3.0 Cloud Edition 操作ガイド インフラ管理者編(リソース管理) - 付録A 一括設定用の構成定義ファイル(CSV形式)」を参照してください。

VIOM構成定義ファイルは、VIOMのWeb UI上から構成定義情報をインポートすることで、VIOMに対して設定が反映されます。詳細は、VIOMのマニュアルを参照してください。

注意

- 先頭行に"RCXCSV,V1.0"、"RCXCSV,V2.0"、"RCXCSV,V3.0"、"RCXCSV,V3.1"、"RCXCSV,V3.2"または"RCXCSV,V3.3"が記述されたCSV形式の構成定義ファイルを読み込み、それをエクスポートした場合、構成定義ファイルの形式は"RCXCSV,V3.4"になります。
- "シャーシ名"が空白の場合、このシャーシ名を含む"Chassis"、"LanSwitch"、"LanSwitchNet"、"Server"、および"Server"セクションに関連する"ServerNet"、"ServerWWNN"、"SpareServer"セクションの情報は保存されません。同様に、"物理サーバ名"が空白の場合、この物理サーバ名を含む"Server"、"ServerNet"、"ServerWWNN"、"SpareServer"セクションの情報は保存されません。
- "ServerAgent"、"ServerVMHost"、"Memo"、"VMManager"、"SPARCEnterprise"、"PRIMERGYPartitionModelChassis"、"PRIMERGYPartitionModelServer"、"Subnet"、"SPARCEnterprisePartitionModelChassis"、"SPARCEnterprisePartitionModelServer"、"MonitorSetting"、"VIOManager"セクションはCSVファイルだけの情報です。CSV形式で読み込んだ構成定義ファイルにこれらのセクションが含まれている場合は、そのままの情報で保存されます。ただし、"SPARCEnterprise"セクションのセクションヘッダに"mgmt_protocol"が含まれていない場合は、セクションヘッダを追加して"XSCF"の値で保存されます。
- CSV形式で読み込んだ構成定義ファイルの"Server"セクションにPRIMERGY BXシリーズ以外のサーバ情報が含まれている場合、保存時にPRIMERGY BXシリーズ以外のサーバ情報は保存されません。

<シャーシの追加>ボタン

表示されているシャーシ定義の台数以上のシャーシ定義を追加する場合にクリックします。

このボタンをクリックすると、ファイルの末尾に新しいシャーシ定義入力欄が追加され、カーソルが追加された入力欄にフォーカスします。

<シャーシの削除>ボタン

表示されている不要なシャーシ定義を削除する場合にクリックします。

このボタンをクリックすると[シャーシの削除]ダイアログが表示されます。選択リストから削除するシャーシを選択し、<OK>ボタンをクリックすると、そのシャーシに関する定義が削除されます。なお、シャーシ定義が1つしかない場合は、削除できません。

<WWNNの自動入力>ボタン

"I/O仮想化オプション"で提供されるWWNN定義ファイル(テキストファイル)を利用してWWNNを自動入力する場合にクリックします。なお、"HBA address renameの設定"チェックボックスをチェックした場合だけ有効です。

このボタンをクリックすると[WWNNの読み込み]ダイアログが表示されます。WWNNファイル名にテキストのWWNN定義ファイルを指定し、シャーシ名に読み込み先のシャーシを選択します。<OK>をクリックすると、対象となるシャーシのWWNNに自動的に値が設定されます。

なお、この機能で設定するWWNNの値は、シャーシ定義の表示スロット数により異なります。

表示スロット数が10の場合、WWNN定義ファイルに記述された16個のアドレスのうち、末尾が1~A(16進数)である10個を使用します。表示スロット数が18の場合、WWNN定義ファイルに記述された16個のアドレスのうち、末尾が1~F(16進数)である15個を使用します。スロット16~18が必要な場合、手動で入力してください。

WWNNはすべてのリソース間で一意の必要があります。別のシャーシや、サーバプロファイルにすでに値が読み込まれている場合は、エラー発生時点でメッセージを表示して自動入力処理を中断します。なお、エラー発生するまでの入力値は保持されます。



注意

WWNN定義ファイルは提供された形式のままに使用してください。編集されたファイルは正しく動作できない場合があります。

"PowerMonitoring"シート

<電力監視デバイスの追加>ボタン

表示されている電力監視デバイス定義の台数以上の電力監視デバイス定義を追加する場合にクリックします。このボタンをクリックすると、ファイルの末尾に新しい電力監視デバイス定義の入力欄が追加され、カーソルが追加された入力欄にフォーカスします。

<電力監視デバイスの削除>ボタン

表示されている不要な電力監視デバイス定義を削除する場合にクリックします。このボタンをクリックすると[電力監視デバイスの削除]ダイアログが表示されます。選択リストから削除する電力監視デバイスを選択し、<OK>ボタンをクリックすると、その電力監視デバイスに関する定義が削除されます。なお、電力監視デバイス定義が1つしかない場合は、削除できません。

"VIOM"シート

<サーバプロファイルの追加>ボタン

サーバプロファイルの定義を追加する場合にクリックします。このボタンをクリックすると、[サーバプロファイルの追加]ダイアログが表示されます。値を入力して、<OK>ボタンをクリックすると、ファイルの末尾に新しいサーバプロファイル定義の入力欄が追加され、カーソルが追加された入力欄にフォーカスします。

<サーバプロファイルの削除>ボタン

表示されている不要なサーバプロファイル定義を削除する場合にクリックします。このボタンをクリックすると[サーバプロファイルの削除]ダイアログが表示されます。選択リストから削除するサーバプロファイルをすべて選択し、<OK>ボタンをクリックすると、該当サーバプロファイル定義が削除されます。



参考

"Blade type"は"BX920-S1","BX920-S2","BX922-S2","BX924-S2"を選択できます。

<WWNNの自動入力>ボタン

"I/O仮想化オプション"で提供されるWWNN定義ファイル(テキストファイル)を利用してWWNNを自動入力する場合にクリックします。このボタンをクリックすると[WWNNの読み込み]ダイアログが表示されます。ファイル名にテキストのWWNN定義ファイルを指定し、読み込み先のサーバプロファイルを選択します。<OK>をクリックすると、選択したサーバプロファイルに順番に値が設定されます。

WWNNはすべてのリソース間で一意の必要があります。別のシャーシやサーバプロファイルにすでに値が読み込まれている場合は、エラー発生時点でメッセージを表示して自動入力処理を中断します。なお、エラー発生するまでの入力値は保持されます。



注意

WWNN定義ファイルは提供された形式のままに使用してください。編集されたファイルは正しく動作できない場合があります。

<MACアドレスの自動入力>ボタン

"I/O仮想化オプション"で提供されるMACアドレス定義ファイル(テキストファイル)を利用してMACアドレスを自動入力する場合にクリックします。このボタンをクリックすると[MACアドレスの読み込み]ダイアログが表示されます。ファイル名にテキストのMACアドレス定義ファイルを指定し、読み込み先のサーバプロファイルを選択します。<OK>をクリックすると、選択したサーバプロファイルに順番に値が設定されます。

MACアドレスはすべてのリソース間で一意の必要があります。別のサーバプロファイルにすでに値が読み込まれている場合は、エラー発生時点でメッセージを表示して自動入力処理を中断します。なお、エラー発生するまでの入力値は保持されます。



MACアドレス定義ファイルは提供された形式のままに使用してください。編集されたファイルは正しく動作できない場合があります。

1.2.2 オプションの使用

以下の機能を利用するには、対応するオプションのチェックボックスまたはラジオボタンをチェックして、必要なワークシートや入力欄を入力可能な状態に切り替える必要があります。

- ネットワークの設定(LANスイッチブレードの設定、およびVLAN設定)
- パスワードを表示
- サーバ切り替えの設定
- HBA address renameの設定
- 電力監視デバイスの設定
- 表示スロット数の選択
- VIOMの設定

すべてのチェックボックスのチェックを外しても、テンプレート上に入力した関連情報は保持されますが、チェックを外した状態でCSV形式に出力する場合、その情報は出力されません。

各チェックボックスおよびラジオボタンの使用方法は以下のとおりです。

"ネットワークの設定"チェックボックス

LANスイッチブレードとVLAN設定を行う場合にチェックします。

このチェックボックスをチェックすると、すべてのシャーシ定義の"LANスイッチブレードの管理情報"項目および"NetVLAN"シートが表示されます。また、"パスワードを表示"チェックボックスも有効な状態になります。

"パスワードを表示"チェックボックス

LANスイッチブレードまたは、VIOMのブート設定(iSCSI)のChap SecretまたはMutual Chap Secretに設定したパスワードを表示する場合にチェックします。

このチェックボックスをチェックすると、それぞれのパスワード項目は入力した文字列のまま表示されます。チェックを外すと、固定文字列"*****"が表示されます。

なお、パスワード文字列が入力されていない場合は、チェックボックスの状態と関係なく、パスワード項目は空白になります。

"サーバ切り替えの設定"チェックボックス

サーバ故障時に予備サーバに切り替える機能を利用する場合にチェックします。

このチェックボックスをチェックすると、すべてのシャーシ定義の"サーバ切替えの設定"項目は入力可能な状態になります。

"HBA address renameの設定"チェックボックス

HBA address renameの設定を行う場合、またはWWNNの自動入力機能を利用したい場合にチェックします。

このチェックボックスをチェックすると、すべてのシャーシ定義の"HBA address renameの設定"項目は入力可能な状態になります。また、<WWNNの自動入力>ボタンも有効な状態になります。

"電力監視デバイスの設定"チェックボックス

電力監視デバイスの設定を行う場合にチェックします。

このチェックボックスをチェックすると、"PowerMonitoring"シートが表示されます。

"表示スロット数の選択"ラジオボタン

シャーシ定義のLANスイッチブレードおよびサーバブレードの表示スロット数を変更する場合に使用します。

このラジオボタンで選択したスロット数は、表示されているすべてのシャーシ定義に反映されます。

複数のシャーシモデルを同時に設定する場合は、対象モデルの中で最も大きいモデルを選択し、設定が必要なスロットに対して入力してください。

例えば、PRIMERGY BX600シリーズとPRIMERGY BX900シリーズを同時に設定する場合は、「LANスイッチブレード×8 + サーバブレード×18 (BX900)」を選択し、設定が必要なスロットに対して入力してください。

ラジオボタンの選択を「LANスイッチブレード×8 + サーバブレード×18 (BX900)」から「LANスイッチブレード×4 + サーバブレー

ド×10 (BX600)」に変更した場合、LANスイッチブレードのスロット5～8およびサーバブレードのスロット11～18に入力した関連情報は保持されますが、CSV形式に出力する場合、その情報は出力されません。

"VIOMの設定"チェックボックス

VIOMの構成定義情報を作成する場合にチェックします。
このチェックボックスをチェックすると、"VIOM"シートが表示されます。
また、"パスワードを表示"チェックボックスも有効な状態になります。

1.2.3 入力チェック

構成定義テンプレートでは、入力が完了した時点で、入力した値が自動的にチェックされます。形式に誤りがある場合や他のリソースと値に重複がある場合は、エラーメッセージが表示されます。チェックの内容は以下のとおりです。

"RCX-template"シート

- シャーシの管理情報
 - シャーシ名(*1)
 - SNMPコミュニティ名 (RW)(*3)
 - IPアドレス(*2)
- LANスイッチブレードの管理情報
 - LANスイッチ名(*1)
 - IPアドレス(*2)
 - SNMPコミュニティ名 (RO)(*3)
 - ユーザ名(*3)
 - パスワード(*3)
 - 特権パスワード(*3)
 - 機種情報 (*3)
- サーバブレードの管理情報
 - 物理サーバ名(*1)
 - IPアドレス(*2)
 - 管理LAN NIC設定
 - 管理LAN NIC1
 - 管理LAN NIC2
 - 管理LAN NIC冗長化
 - サーバ切替えの設定
 - 予備サーバ名(*3)
 - VLAN切替え(*3)
 - 自動切替え(*3)
 - 起動方式(*3)
 - 電源強制OFF
 - VMゲスト存在
 - HBA address renameの設定
 - ポート数(*3)

- WWNN(*2)

"NetVLAN"シート

- LANスイッチブレードのVLAN情報
 - VLAN ID、およびタグ条件(T/U)
 - ポート1～ポート14(*3)
- サーバブレードのVLAN情報
 - VLAN ID、およびタグ条件(T/U)
 - NIC 1～NIC 8(*3)

"PowerMonitoring"シート

- 電力監視デバイス情報
 - デバイス名(*1)
 - IPアドレス(*2)
 - SNMPコミュニティ名(RO)(*3)
 - 電圧(*3)
 - コメント(*3)

"VIOM"シート

- サーバプロファイル情報
 - Name of the profile(*1)
 - Disable Boot Menu Usage(F12)(*3)
 - Onboard IO channels(*3)
 - Daughter Card 1
 - Daughter Card 1(*3)
 - IO Channels(*3)
 - Daughter Card 2
 - Daughter Card 2(*3)
 - IO Channels(*3)
 - SMUX setting(*3)
- サーバプロファイルのI/O設定
 - Virtual WWNN(*2)
 - Virtual WWPN(*2)
 - Virtual MAC(*2)
 - Network(*3)
 - Boot(*3)
 - Boot priority(*3)

- サーバプロファイルのブート設定(SAN)

- 1st Target

- Port Name(WWPN)(*1)

- LUN(*3)

- 2nd Target

- Port Name(WWPN)(*1)

- LUN(*3)

- Speed(*3)

- Topology(*3)

- サーバプロファイルのブート設定(iSCSI)

- Initiator Parameters

- Address Origin(*3)

- Initiator Name(*3)

- IPv4 Address(*2)

- Subnet Mask(*3)

- Gateway Address(*3)

- Target Parameters

- Address Origin(*3)

- Target Name(*3)

- IPv4 Address(*2)

- Port(*3)

- LUN(*3)

- Authentication Method (*3)

- Chap Username(*3)

- Chap Secret(*3)

- Mutual Chap Secret(*3)

*1: 値の形式と同一リソース内で値の一意性がチェックされます。

*2: 値の形式とすべてのリソース内で値の一意性がチェックされます。

*3: 値の形式だけがチェックされます。

第2章 構成定義ファイルの作成・編集

ここでは、サーバブレードの構成定義ファイルの作成・編集方法について説明します。

2.1 ブレードサーバ

サーバブレードの構成定義ファイルの各項目は以下に説明します。

"RCX-template"シート

・ シャーシの管理情報

シャーシ名

シャーシを管理するための名前です。

先頭文字を英字とし、半角英数字とハイフン("-")で構成された10文字以内の文字列を入力します。



名前は同種別のリソース間で一意である必要があります。なお、英字の大小文字は区別されません。

SNMPコミュニティ名 (RW)

マネジメントブレードに設定されているSNMPコミュニティ名(参照権、参照更新権)です。

半角英数字とアンダースコア("_")で構成された32文字以内の文字列を入力します。

IPアドレス

マネジメントブレードに設定されているIPアドレスです。

半角数字(0~255)とピリオド(".")で構成された文字列を入力します。



10.20.30.40



IPアドレスはすべてのリソース間で一意である必要があります。

・ LANスイッチブレードの管理情報

スロット番号

LANスイッチブレードの搭載位置を示す番号です。



本製品では、LANスイッチの登録時に実機のスロット位置、および装置の実装確認は行いません。

LANスイッチ名

LANスイッチブレードを管理するための名前です。

半角英数字、ハイフン("-")およびアンダースコア("_")で構成された15文字以内の文字列を入力します。

注意

名前は同種別のリソース間で一意である必要があります。なお、英字の大小文字は区別されます。

IPアドレス

LANスイッチブレードに設定されているIPアドレスです。
半角数字(0~255)とピリオド(".")で構成された文字列を入力します。

例

10.20.30.40

注意

IPアドレスはすべてのリソース間で一意である必要があります。

SNMPコミュニティ名 (RO)

LANスイッチブレードに設定されているSNMPコミュニティ名(参照権)です。
半角英数字とアンダースコア("_")で構成された32文字以内の文字列を入力します。

ユーザ名

LANスイッチブレードに設定されているリモートログイン用のユーザ名です。
半角英数字(大文字/小文字)、ハイフン("-")およびアンダースコア("_")で構成された64文字以内の文字列を入力します。

パスワード

LANスイッチブレードに設定されているリモートログイン用のパスワードです。
ダブルクォーテーション(")を除く、半角英数字および記号がASCII文字(0x20、0x21および0x23~0x7e)で構成された80文字以内の文字列を入力します。なお、入力したパスワードは平文パスワードとして認識されます。

特権パスワード

LANスイッチブレードに設定されているリモートログイン用特権管理者パスワードです。
ダブルクォーテーション(")を除く、半角英数字および記号がASCII文字(0x20、0x21および0x23~0x7e)で構成された80文字以内の文字列を入力します。なお、入力したパスワードは平文パスワードとして認識されます。

機種情報(リスト)

LANスイッチブレードの機種をリストから選択します。

• サーバブレードの管理情報

スロット番号

サーバブレードの搭載位置を示す番号です。

注意

本製品では、サーバブレードの登録時に実機のスロット位置、および装置の実装確認は行いません。

物理サーバ名

サーバブレードを管理するための名前です。先頭文字を英字とし、半角英数字とハイフン("-")で構成された15文字以内の文字列を入力します。なお、丸括弧("(")でくくった場合は、該当サーバは切替え後の状態と認識し、一括設定実行時にその行は実行されません。

注意

名前は同種別のリソース間で一意である必要があります。なお、英字の大小文字は区別されません。

IPアドレス

サーバブレードに設定するものと同じIPアドレスです。
半角数字(0~255)とピリオド(".")で構成された文字列を入力します。

例

10.20.30.40

注意

IPアドレスはすべてのリソース間で一意である必要があります。

管理LAN NIC設定

管理LAN NICの設定を行います。

管理LAN NIC1

管理LAN NIC1の番号です。
1以上の整数値を入力します。

管理LAN NIC2

管理LAN NIC2の番号です。
1以上の整数値またはハイフン(-)を入力します。

管理LAN NIC冗長化

管理LAN NICの冗長化をするかどうかをリストから選択します。
ON: NICを冗長化する
OFF: NICを冗長化しない

注意

管理LAN NIC1と管理LAN NIC2は同一の番号を指定できません。

サーバ切替えの設定

予備サーバ機能を利用する場合に入力します。

予備サーバ名

予備サーバの物理サーバ名を入力します。
複数予備サーバを指定する場合、セミコロン(";")で区切って並べてください。なお、既存の予備サーバ設定を解除するには、"-DELETE"を入力してください。

VLAN切替え(リスト)

予備サーバに切り替える際に、サーバブレードのVLAN設定を予備サーバに引き継ぐかどうかをリストから選択します。

ON: 引き継ぐ
OFF: 引き継がない
-: 未設定(引き継がない)

自動切替え(リスト)

サーバブレードの故障を検出した場合に、自動的に予備サーバに切り替えるかどうかをリストから選択します。

- ON: 自動的に切り替える
- OFF: 自動的に切り替えない
- : 未設定(自動的に切り替えない)

起動方式(リスト)

予備サーバに切り替える際に、「内蔵ディスクから起動し、SANストレージをデータ領域として利用する」または「SANストレージから起動する」をリストから選択します。

起動方式は、HBA address renameの設定がされている場合に有効な設定値になります。HBA address renameの設定がされていない場合は、設定の必要はありません。

local: 内蔵ディスクから起動し、SANストレージをデータ領域として利用する

SAN: SANストレージから起動する

- : 未設定(内蔵ディスクから起動し、SANストレージをデータ領域として利用する場合、またはVIOMのブート設定を使用して起動する場合)

強制電源OFF

予備サーバに切り替える際に、予備サーバの電源を強制OFFするかどうかをリストから選択します。

ON: 予備サーバの電源を強制OFFする

OFF: 予備サーバの電源を強制OFFしない

- : 未設定(予備サーバの電源を強制OFFしない)

VMゲスト存在

VMゲストが存在するVMホストに対してサーバ切替えを行うかをリストから選択します。

ON: サーバ切替えを行う

OFF: サーバ切替えを行わない

- : 未設定(サーバ切替えを行わない)

HBA address renameの設定

HBA address rename機能を利用する場合に入力します。

この設定は、次回の管理対象サーバ起動時に反映されます。

注意

登録済みのサーバに対して、HBA address renameの設定解除はできません。一度サーバを削除し、再登録を行ってください。

ポート数(リスト)

HBA address renameを利用するポート数をリストから選択します。

1: 1ポートにHBA address renameを設定する

2: 2ポートにHBA address renameを設定する

- : HBA address renameを設定しない

WWNN

HBA address renameを利用する物理サーバのWWNNです。

先頭の3桁の値を必ず"20 0"とし、半角英数字で構成された16桁16進数の文字列を入力します。入力後に自動的に2桁ごとに空白(" ")を追加して構成します。"I/O仮想化オプション"で提供されるWWNN定義ファイル(テキストファイル)の自動入力をお勧めします。

注意

WWNNはすべてのリソース間で一意である必要があります。なお、英字の大小文字は区別されません。

"NetVLAN"シート

- LANスイッチブレードのVLAN情報

ポート 1～ポート 14

LANスイッチブレードのポートに設定するVLAN ID(1～4094)、およびタグ条件("/T"(タグ)または"/U"(タグなし))を入力します。

VLAN IDの後ろにタグ条件を続けて指定してください。1つのポートに複数のVLAN IDを指定する場合、セミコロン(";")で区切って並べてください。タグ条件について、/Tと/Uの混在ができませんが、/UのVLAN IDは1つだけ指定できます。



例

10/U
10/U;20/T;30/T
10/T;20/T



注意

ハイフン("-")を入力した場合、VLANの設定は行われません。

- サーバブレードのVLAN情報

NIC 1～NIC 8

サーバブレードのポートに設定するVLAN ID(1～4094)、およびタグ条件("/T"(タグ)または"/U"(タグなし))を入力します。

VLAN IDの後ろにタグ条件を続けて指定してください。1つのポートに複数のVLAN IDを指定する場合、セミコロン(";")で区切って並べてください。タグ条件について、/Tと/Uの混在ができませんが、/UのVLAN IDは1つだけ指定できます。



例

10/U
10/U;20/T;30/T
10/T;20/T



注意

ハイフン("-")を入力した場合、VLANの設定は行われません。

NIC 7とNIC 8は、増設LANカードを装着した場合に指定してください。

"PowerMonitoring"シート

- 電力監視デバイス情報

デバイス名

電力監視デバイスを管理するための名前です。

先頭文字を英字とし、半角英数字とハイフン("-")で構成された15文字以内の文字列を入力します。



注意

名前は同種別のリソース間で一意である必要があります。なお、英字の大小文字は区別されます。

IPアドレス

電力監視デバイスに設定されているIPアドレスです。
半角数字(0~255)とピリオド(".")で構成された文字列を入力します。



例

10.20.30.40



注意

IPアドレスはすべてのリソース間で一意である必要があります。

SNMPコミュニティ名 (R0)

電力監視デバイスに設定されているSNMPコミュニティ名(参照権)です。
半角英数字とアンダースコア("_")で構成された32文字以内の文字列を入力します。

電圧

電力監視デバイスに接続されている電源の電圧(V)です。半角数字(10~999)を入力します。



注意

本製品では、指定される電圧(V)と電力監視デバイスから取得される電流(A)を用いて消費電力(W)を算出します。

コメント

任意のコメントを指定します。

日本語(半角カナを含む)、半角文字に関係なく128文字以内の文字列を入力します。



注意

改行は1文字としてカウントします。改行は"Alt+Enter"で入力します。

"VIOM"シート

・ サーバプロファイル情報

Name of the profile

サーバプロファイルの名前を入力します。半角英数字とハイフン("-")、アンダースコア("_")で構成された32文字以内の文字列を入力します。



注意

名前は同種別のリソース間で一意である必要があります。なお、英字の大小文字は区別されません。

Disable Boot Menu Usage(F12)(リスト)

ブートメニューを無効にするかどうかをリストから選択します。

ON: ブートメニューを無効にする。

OFF:ブートメニューを無効にしない。

Onboard IO channels(リスト)

オンボードのI/Oチャンネル数(1~6)をリストから選択します。

Daughter Card 1

Daughter Card 1の設定を行います。

Daughter Card1(リスト)

ドーターカード1の種別をリストから選択します。

FC: ファイバーチャンネル

LAN: LAN

No: 搭載していない

IO Channels(リスト)

ドーターカード1のI/Oチャンネル数(1~4)をリストから選択します。

Daughter Card 2

Daughter Card 2の設定を行います。

Daughter Card2(リスト)

ドーターカード2の種別をリストから選択します。

FC: ファイバーチャンネル

LAN: LAN

No: 搭載していない

IO Channels(リスト)

ドーターカード2のI/Oチャンネル数(1~4)をリストから選択します。

SMUX setting(リスト)

SMUXの設定をリストから選択します。

SMUXとはLANカードとFabricの接続を変更する機能です。

Fabric 4: Fabric4を使用する。

Fabric 3: Fabric3を使用する。

Fabrics 3 & 4: Fabric3と4を使用する。

・ サーバプロファイルのI/O設定

Name of the profile

I/O設定を行うサーバプロファイル名が表示されます。

Port

I/O設定を行うポートが表示されます。

Daughter Card

I/O設定を行うドーターカードの種別が表示されます。

Virtual WWNN

サーバプロファイルに設定する仮想WWNNを入力します。

半角英数字で構成された16桁16進数の文字列を入力します。

入力後に自動的に2桁ごとに空白(" ")を追加して構成します。"I/O仮想化オプション"で提供されるWWNN定義ファイル(テキストファイル)の自動入力をお勧めします。



WWNNは、すべてのリソース間で一意である必要があります。なお、英字の大小文字は区別されません。VIOMインストール時に仮想アドレス範囲を指定している場合は、アドレス範囲に含まれるWWNNを指定してください。"I/O仮想化オプション"を利用する場合は、"I/O仮想化オプション"で提供されるWWNNを指定してください。

Virtual WWPN

サーバプロファイルに設定する仮想WWPNを入力します。
半角英数字で構成された16桁16進数の文字列を入力します。

入力後に自動的に2桁ごとに空白(" ")を追加して構成します。"I/O仮想化オプション(FJ-WWN16)"で提供されるWWNN定義ファイル(テキストファイル)の自動入力をお勧めします。

自動入力は以下の手順で実施してください。

[新規作成の場合(Virtual WWPN/Virtual MAC)]

1. サーバプロファイルを以下の設定で作成してください。
 - Onboard IO channels … 1
 - "FC"を設定する各Daughter Card1/2のIOChannels … 1
 - "LAN"を設定する各Daughter Card1/2 … "No"
2. WWNNの自動入力ボタンを押下し、I/O仮想化オプション(FJ-WWN16)と、展開したいサーバプロファイルを選択してください。
3. MACアドレスの自動入力ボタンを押下し、I/O仮想化オプション(FJ-MAC16)と、展開したいサーバプロファイルを選択してください。
4. Onboard IO channels、各Daughter Card1/2のIO Channelsを変更する場合、サーバプロファイルのポートの設定がすべて初期化されてしまうため、Virtual MACVirtual WWNNの値をメモに記録後、IO Channelsの値を変更してください。
5. 各プロファイルのFCカードのVirtual WWNNの値を手順4.のメモをもとに設定します。2ポート目以降のWWNNの値は、同一カード内のPort 1のWWNNの値を設定します。WWPNの値は、WWNNの値により自動で設定されます。
6. 各プロファイルのOnboard、各LANカードのVirtual MACの値を手順4.のメモをもとに設定します。
Onboard 2以後のVirtual MACの値をOnboard 1に設定された値を元に設定してください。
Onboard 1の末尾が0ですので、一旦値をセル内でコピーしてOnboard 2のセル内で貼り付け、末尾を1にします。
次行以後も同様にセル内で貼り付け、末尾を前行の+1にします。

[変更の場合(Virtual WWPN)]

1. 各Daughter Card1/2の"FC"を設定しているIO Channelsを1に設定してください。IO Channelsの値を変更すると、ポートの設定はすべて消去されるため、各ポートの設定値※をメモとして記録してください。
※ メモが必要な設定値
 - Boot
 - Boot priority
 - サーバプロファイルのブート設定
2. WWNNの自動入力ボタンを押下し、I/O仮想化オプション(FJ-WWN16)と、展開したいサーバプロファイルを選択してください。
3. 割り当てられたWWNNをメモに記録後、手順1.~2.を行う前のポートの設定を手順1.のメモをもとに再設定してください。
4. 各プロファイルのFCカードのVirtual WWNNの値を手順3.のメモをもとに設定します。
2ポート目以降のWWNNの値は、同一カード内のPort 1のWWNNの値を設定します。
WWPNの値は、WWNNの値により自動で設定されます。

注意

VIOMインストール時に仮想アドレス範囲を指定している場合は、アドレス範囲に含まれるWWPNを指定してください。
"I/O仮想化オプション(FJ-WWN16)"で提供されるWWNN(20:0x:00:17:42:xx:xx:xx)を利用している場合、WWPNはWWNNの値に基づいて自動で作成されます。

WWPNは、全体で一意である必要があります。なお、英字の大小文字は区別されません。

Virtual MAC

サーバプロフィールに設定する仮想MACアドレスを入力します。
半角英数字で構成された12桁16進数の文字列を入力します。

入力後に自動的に2桁ごとに空白(" ")を追加して構成します。"I/O仮想化オプション(FJ-MAC16)"で提供されるMACアドレス定義ファイル(テキストファイル)の自動入力をお勧めします。

自動入力は以下の手順で実施してください。

[新規作成の場合(Virtual MAC※)]

※Virtual WWPNNも新規作成する場合にはVirtual WWPNNの新規作成手順を参照してください。

1. サーバプロフィールを作成時にOnboard IO channelsを1に、各Daughter Card1/2は"No"を設定してください。
2. MACアドレスの自動入力ボタンを押下し、I/O仮想化オプション(FJ-MAC16)と、展開したいサーバプロフィールを選択してください。
3. Onboard IO channels、各Daughter Card1/2のIO Channelsを変更する場合、サーバプロフィールのポートの設定がすべて初期化されてしまうため、Virtual MACをメモに記録後IO Channelsの値を変更し、変更後にVirtual MACを再設定してください。

4. 追加された各プロフィールのOnboard、各LANカードのVirtual MACの値を手順3.のメモをもとに設定します。

Onboard 2以後のVirtual MACの値をOnboard 1に設定された値を元に設定してください。

Onboard 1の末尾が0ですので、一旦値をセル内でコピーしてOnboard 2のセル内で貼り付け、末尾を1にします。

次行以後も同様にセル内で貼り付け、末尾を前行の+1にします。

[変更の場合(Virtual MAC)]

1. 各プロフィールのOnboard IO channelsを1に設定してください。

IO Channelsの値を変更すると、ポートの設定はすべて消去されるため、すべてのポートの設定値※をメモとして記録してください。

※ メモが必要な設定値

- Network

- Boot

- Boot priority

- サーバプロフィールのブート設定

2. 各Daughter Card1/2に"LAN"を設定している箇所を"No"に設定してください。

"LAN"の設定がすでにある場合は、設定値が消去されるためすべてのポートの設定値※をメモとして記録してください。

※ メモが必要な設定値

- IO Channels

- SMUX setting

以下は、各Daughter Card1/2に設定されているポートごとの設定値

- Network

- Boot

- Boot priority

- サーバプロフィールのブート設定

3. MACアドレスの自動入力ボタンを押下し、I/O仮想化オプション(FJ-MAC16)と、展開したいサーバプロフィールを選択してください。

4. 割り当てられたVirtual MACをメモに記録後、手順1.~2.を行う前のOnboard IO channels、Daughter Card1/2の値をそれぞれ手順1.~2.のメモをもとに再設定してください。

5. 追加された各プロファイルのOnboard、各LANカードのVirtual MACの値を手順4.のメモをもとに設定します。

Onboard 2以後のVirtual MACの値をOnboard 1に設定された値を元に設定してください。

Onboard 1の末尾が0ですので、一旦値をセル内でコピーしてOnboard 2のセル内で貼り付け、末尾を1にします。

次行以後も同様にセル内で貼り付け、末尾を前行の+1にします。

注意

VIOMインストール時に仮想アドレス範囲を指定している場合は、アドレス範囲に含まれるMACアドレスを指定してください。
"I/O仮想化オプション(FJ-MAC16)"を利用する場合は、"I/O仮想化オプション(FJ-MAC16)"で提供されるMACアドレスを指定してください。

MACアドレスは全体で一意である必要があります。なお、英字の大小文字は区別されません。

Network

ネットワーク名を入力します。

半角英数字と記号(アンダースコア("_")およびハイフン("-"))で構成された32文字以内の文字列

注意

VIOMに登録されているネットワーク名を指定してください。

英字の大小文字は区別されません。

Boot(リスト)

ブート方式をリストから選択します。

PXE boot: PXEブート

SAN boot: SANブート

iSCSI boot: iSCSIブート

disabled: ブート設定なし

注意

SANブート、iSCSIブートを設定した場合、ブート設定を行う必要があります。

本製品では、SANブートの設定は、BIOS上で行うことを推奨します。

Boot Priority(リスト)

ブート順位(1~4)をリストから選択します。

・サーバプロファイルのブート設定(SAN)

Name of the profile

SANのブート設定を行うサーバプロファイル名が表示されます。

Port

SANのブート設定を行うポートが表示されます。

1st Target

Port Name(WWPN)

SANブートで起動する1番目のストレージのWWPNを入力します。

半角英数字で構成された16桁16進数の文字列を入力します。

入力後に自動的に2桁ごとに半角スペース(" ")を追加して整形します。

LUN

SANブートで起動する1番目のストレージのLUNを入力します。
半角数字(0~255)の値を入力します。

2nd Target

Port Name(WWPN)

SANブートで起動する2番目のストレージのWWPNを入力します。
半角英数字で構成された16桁16進数の文字列を入力します。
入力後に自動的に2桁ごとに半角スペース(" ")を追加して整形します。

LUN

SANブートで起動する2番目のストレージのLUNを入力します。
半角数字(0~255)の値を入力します。

Speed (リスト)

接続速度をリストから選択します。

auto negotiate: 自動

1 Gbit/s: 1 Gbit/s

2 Gbit/s: 2 Gbit/s

4 Gbit/s: 4 Gbit/s

8 Gbit/s: 8 Gbit/s



注意

接続するFCスイッチや、ストレージの設定とあわせてください。

Topology(リスト)

接続形態を選択します。

auto(Point-to-Point first): 自動(はじめにPoint-to-Pointで接続を試みます。)

Point-to-Point: Point-to-Point

auto(loop first): 自動(はじめにArbitrated loopで接続を試みます。)

Arbitrated loop: Arbitrated loop

・サーバプロファイルのブート設定(iSCSI)

Name of the profile

iSCSIのブート設定を行うサーバプロファイル名が表示されます。

Port

iSCSIのブート設定を行うポートが表示されます。

Initiator Parameters

イニシエータの設定を行います。

Address Origin (リスト)

イニシエータのアドレス取得方法を選択します。

DHCP: DHCPサーバから動的にアドレスを取得します。

static: 静的にアドレスを設定します。



注意

本製品では、staticを指定し、静的にアドレスを設定してください。

Initiator Name

イニシエータのIQNを入力します。

先頭および、末尾が英数字、それ以外は、英数字および記号(ピリオド"."、コロン":"およびハイフン"-")で構成された223文字以内の文字列を指定します。

注意

IQNは、一意である必要があります。IQNが重複し、同一ボリュームに同時にアクセスするとボリュームを破壊する可能性があります。

IQNは、英字の大小文字は区別されません。なお、本項目は小文字で入力してください。

IPv4 Address

イニシエータで使用するIPアドレスを入力します。

半角数字(0~255)とピリオド(".")で構成された文字列を入力します。

注意

IPアドレスはすべてのリソース間で一意である必要があります。

イニシエータとターゲットは、同一ネットワークにしてください。

Subnet Mask

サブネットマスクを入力します。

半角数字(0~255)とピリオド(".")で構成された文字列を入力します。

Gateway Address

ゲートウェアのアドレスを入力します。

半角数字(0~255)とピリオド(".")で構成された文字列を入力します。

Target Parameters

ターゲットの設定を行います。

Address Origin (リスト)

イニシエータのアドレス取得方法を選択します。

DHCP: DHCPサーバから動的にアドレスを取得します。

static: 静的にアドレスを設定します。

注意

本製品では、staticを指定し、静的にアドレスを設定してください。

Target Name

ターゲットのIQNを入力します。

先頭および、末尾が英数字、それ以外は、英数字および記号(ピリオド"."、コロン":"およびハイフン"-")で構成された223文字以内の文字列を指定します。

注意

ターゲットの設定を確認して入力してください。

IQNは、英字の大小文字は区別されません。なお、本項目は小文字で入力してください。

IPv4 Address

ターゲットのIPアドレスを入力します。
半角数字(0～255)とピリオド(".")で構成された文字列を入力します。

注意

IPアドレスはすべてのリソース間で一意である必要があります。
イニシエータとターゲットは、同一ネットワークにしてください。

Port

ターゲットのポート番号(1024～65535)を入力します。
半角数字の値を入力します。

注意

ターゲットのポート番号を確認して設定してください。

LUN

ターゲットのLUN番号(0～255)を指定します。
半角数字の値を入力します。

Authentication Method(リスト)

認証方式を選択します。

None: 認証なし

CHAP: CHAP認証

MutualCHAP: 相互CHAP認証

注意

ターゲットと設定を合わせてください。

Chap Username

認証ユーザ名を指定します。
半角英数字および記号がASCII文字(0x20～0x7e)で構成された127文字以内の文字列を入力します。

注意

ターゲットと設定を合わせてください。

Chap Secret

CHAP認証に使用するシークレットを指定します。
半角英数字および記号がASCII文字(0x20～0x7e)で構成された12以上16文字以内の文字列を入力します。なお、入力したパスワードは平文パスワードとして認識されます。

注意

ターゲットと設定を合わせてください。

Mutual Chap Secret

相互CHAP認証に使用するシークレットを指定します。
半角英数字および記号がASCII文字(0x20~0x7e)で構成された12以上16文字以内の文字列を入力します。なお、入力したパスワードは平文パスワードとして認識されます。



ターゲットと設定をあわせてください。